

## 株主のみなさまへ

OKIは得意とするエッジ領域で、  
強みのある独自技術を活かして社会課題の解決を目指します。



株主のみなさまには平素よりOKIグループの経営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大によって社会活動は不安定となり、当社の中間期における業績についても売上高、営業利益にマイナスの影響がありました。このウイルスがもたらすパラダイムシフトは、既に始まっていた社会のデジタル化の流れを一気に加速させるものになります。

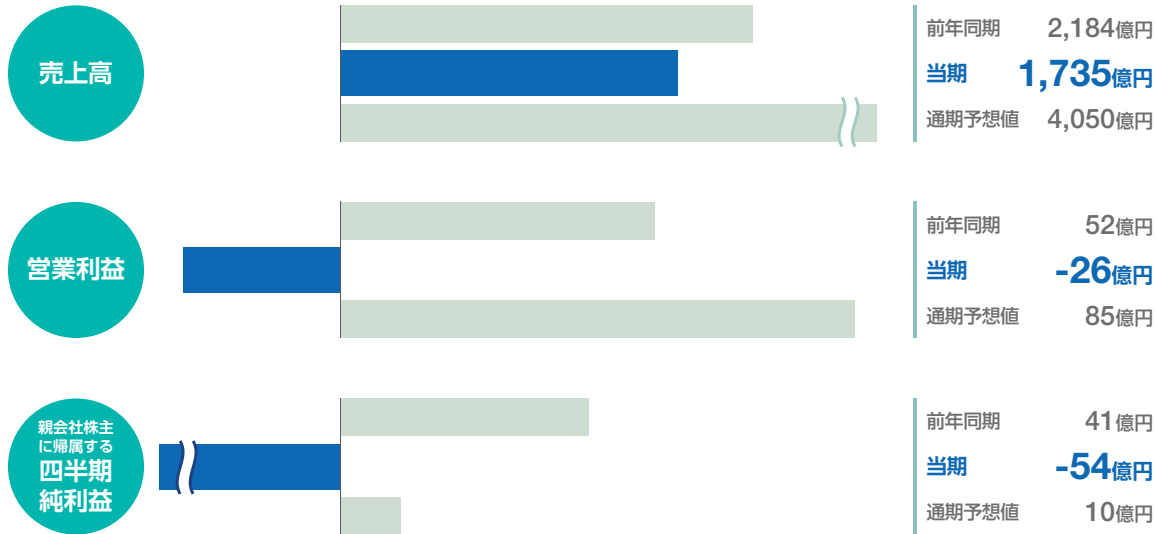
コロナ後のニューノーマルとされる生活では、非接触・非対面、リモートでのサービス提供がスタンダードな形態になります。そしてそれを可能とするデバイスの開発やインフラとなるネットワークの高速化、大容量化が一層進んでいきます。

OKIは、特長ある端末を製造する独自の技術やネットワーク、センシングの技術をベースにエッジ領域に特化して長きにわたって社会インフラを支えてまいりました。こうしたビジネスの蓄積と強みのある技術を活かして独自にAIエッジにおける戦略を展開しています。お客様との共創を通じて新たな社会ニーズに応えて、安心・安全な新しい商品やサービスを提供してまいります。

2020年12月

代表取締役社長執行役員 **鎌上信也**

## 2020年度第2四半期累計期間業績



詳細は  
こちらから

### 第2四半期累計 業績のポイント

- ソリューションシステム事業は、前年の特殊要因(大型案件および会計基準変更影響)を除くと、業況は安定
- コンポーネント&プラットフォーム事業は、海外市場を中心にコロナ影響を受け、機器販売が低迷

売上高は、海外ビジネスにおいてコロナ影響が顕著であったほか、ブラジル子会社の事業譲渡、そして前年にはネットワーク関連の大型案件などもあったことから、前年比減収となりました。利益面については、大幅な減収に加えて、ハードウェア事業をメインとした構造改革に伴う費用を計上したことから、大幅な悪化となりました。

### <中期経営計画>

OKIIは2020年度を初年度とする中期経営計画をスタートさせました。大きく変化している社会環境をとらえて、これからの社会が求める商品やサービスを持続的に提供していくために事業ポートフォリオを見直し、しっかりとした土台作りを行うための3年計画となります。



詳細は  
こちらから